



広報

Nakadomari PR Magazine

なかどまり

11月

NOV. 2019 No.176



特集 No.5

地域の活力を生み出す産業



【まちの話題】

社協が防災体験事業実施
MOA美術館表彰式

【お知らせ】

冬季・年末年始のごみ収集日
法人住民税の変更

地元の雇用と恩返しのために

信頼と技術を、その手に宿して

時勢

かつて津軽地方を中心に、県内に数力所の生産拠点を持つ電子部品の製造企業があった。各拠点には100人を超える従業員がいて、全体では1000人ほどになる大きな企業であった。それゆえに、業績は安泰の見通しだった。製造を請け負うだけでなく、開発も手がけていくとしていたところが、受注していた製品の生産拠点が海外に移りはじめ、生産の縮小を余儀なくされていった。時を同じくして、軌道に乗せるべく取り組んでいたほかの生産事業が期待した成果を見せなかった。この状況を打破できず、生産拠点も縮小しはじめ、閉業へと進む。小山内さんは当時、工場長で、状況説明と生産が出来なくなることを謝罪するため、取り引き先各所に赴いたのだった。

起業

そんな中で「なんとか継続してくれないか」と言ってくれる企業が多数あった。前社時代の取り引き先からの信頼と折角の期待に応えるため、そして工場で共に汗を流した従業員が路頭に迷わないよう、一念発起の決断を下す。小山内さんも、自身で抱えた不安を振り払っての起業だった。

生産拠点はそのままに、前社を引き継ぐようにして、2010年に会社を設立した。

社名のテックイーには、技術や専門性を表すテクニカル(Technical)とテックニック(Technic)のテック(tec)と、電気(Electronics)、環境(Environment)、エコロジー(Ecology)の頭文字イー(E)をとり、これらの3つの意味が込められている。

奮起

開業前後は、まさに前途多難であった。起業時には2008年のリーマンショックによる金融危機の影響、起業後は、2011年の東日本大震災。苦しい状況の中、経営を軌道に乗せるまではーと、歯をくいしばりながら先頭に立ち続けた。

小山内さんは、起業時に守ると決意した信頼と雇用のために、「ひたすら奔走するしかなかった」と当時の気持ちを振り返る。心ない言葉を掛けられたり、資金繰りに苦労したりと頭を抱えるようなこともあったが、取り引き先をはじめ、金融機関や行政機関など業種を超えた声援が原動力となった。小山内さんは「自分一人の力では出来なかった」と、当時を思い起こす。

(株)テックイー

仲間

「会社として、転職は社員を信頼することにあった」という。ただ、大きく自身の意識が変わる出来事があった。小山内さんは、経営難に陥らないようと会社との隅々まで気を張って旗振りをしていった。それを見た関東地方の企業から「もつと従業員に信頼を寄せてはどうか」と声を掛けられたことがあったのだという。前社時代から歩みを共にした従業員が仲間だという認識はこのことをきっかけに一層強くなる。結果として、社内での役割分担を見直すことに繋がり、効率の良い生産・経営へとシフトし、業績も自然と振るようになった。関東地方から見守ってくれる企業の存在と、従業員と仲間としての強固な信頼関係が、同社の道を切りひらいた。

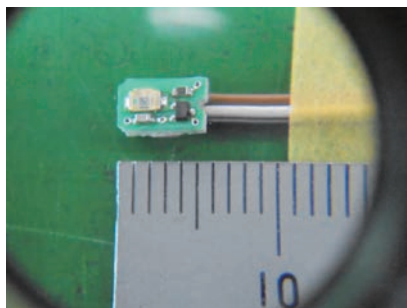
信頼

同社が手掛ける製品は、年間1000種類を超えているという。機械による生産ができない、細かい調整が求められる手作業の生産を得意とする。5mm四方の基板から3mm四方の機械まで幅広く手掛けている。しっかり工程や手順を守ることで手作業の不確実性を低減させ、不良品や返品はゼロに等しいという。

自社でトラックも所有している。関東地方の発注者に、地理的なハンデを感じさせないためだという。毎週納品や引き取りにトラックを走らせるほか、夕方までに電話連絡すると翌朝の納品も可能としている。地理的ハンデを克服した迅速な納品は、同社の強みとなっている。

一度取り引きのあった相手とは関係が途絶えたことが無いという。確かな品質と迅速な対応が産相乗効果で、発注者はリピーターとなつて関係が長く続いている。たとえ自社で受注できない案件でも、地元企業を紹介してコーディネートする役割を行うことも多いという。発注の有無を問わず客先の相談に応えることで信頼はより強く、大きくなっていく。

恩義



幅5mmの電子基板

地域の雇用と産業を守るために奔走した小山内さんは、地域への還元特別な思いがある。育ててくれた地元への感謝、共に奮起した従業員、応援してくれた人々への恩義だ。働き方改革にも着手した。育児や介護で働けない人のために在宅ワークを提供して、収入の確保や復帰のしやすさに配慮した。継続して働いてもらうことは、従業員が培った技術力の流出を防ぐばかりか、地域に根付いたものづくりへと貢献している。

小山内さんは、自身が小泊地域出身で、中里地域で創業したこと、現在も中里地域から約20人の従業員が働いていることもあって、地元・中泊町への思いも強い。自社トラック納品は、中泊町内の企業と協力して行い、自社の利益だけでなく、地域全体の利益と地域の産業を活性化させる狙いがある。

共存



自社トラック。毎週、納品と引き取りのために関東地方へ走っている。

関東地方を営業する際は、どんな技術力が求められ、需要があるのか常にアンテナを張り巡らせている。この津軽の地でものづくりを続け、地域の産業を守っていくためだ。小山内さんは「ものづくりによる地域への波及効果は大きい。関東から仕事を少しでも多く取り込み、継続することが、地域貢献につながる」と話す。仲間である従業員と育んできた同社の信頼と技術、そして同社の存在そのものが地域の活力を支えている。



代表取締役
小山内 公樹さん
(小泊地域出身)

株式会社 テックイー

【代 表】 代表取締役 小山内 公樹

【所在地】 〒037-0401 五所川原市相内字岩井81-87

【電 話】 0173-27-7766

【URL】 <http://www.tech-e.jp>

【設 立】 2010年7月

【従業員】 41人

【業 務】 電子機器製造事業(基板実装～完成品直送まで)、各種装置組み立て

【協力会社】 (株)M-PAL、武田電子(株)、タニサワ製作所 ほか県内十数社・県外十数社



中里高校の存続を

県教育長へ要望書

来年度の募集停止が協議されている中里高校の存続を要望しようと、10月1日(火)に濱館町長、長利議会議長、小寺也人PTA会長ほか関係者が県庁を訪れ、和嶋延寿県教育長に同校存続の要望書を手渡しました。県教育委員会では2017年策定の「県立高校再編に関する第1期実施計画」では、同校は生徒の通学事情を考慮して県内に6つある「地域校」に指定。存続の要件であった募集人員に対する入学人数が、2年連続で2分の1未満のため、来年度の募集停止を県教委と中泊町で協議してきました。



濱館町長は「子どもがいなくなったから高校をなくしてもいいのか。県の地域政策、そして若者定着のため今一度考えていただきたい」と訴えました。和嶋県教育長は「地元の人たちに育てられている学校」と認識を話し、今後の会議で対応を検討すると回答しました。

文化祭も地域とともに 中里高校文化祭

生徒たちの学校生活の記録や、地域貢献の様子を展示し、模擬店やステージ発表が催された中里高校の文化祭が10月13日(日)に同校で開催されました。展示コーナーでは、中里高校のこれまでの歩みや最近の活動をまとめた写真展のほか、各部活動や授業の成果が並び、家庭科夏休み課題発表コーナーでは町の特産であるトマトやブルーベリーを使った生徒オリジナルレシピが展示されていました。ステージ発表では、平成27年からなかどまりまつりの囃子に携わっていることから、ねぶた囃子とメバルねぶたが披露されたほか、山王坊日吉神社(五所川原市市浦)のお田植祭や抜穂祭で交流のあった「嫁こさ来いシスターズ」による手踊りも行われました。そのほか、かつて世界一辛い唐辛子と言われ、新たな町の特産品として注目の「ジョロキア」を使った激辛料理の販売もありました。来校者数は延べ228人で、地域とともにつくった文化祭は大盛況の内に幕を閉じました。

～高校再編～ 中里高校 来年度募集停止へ

県教育委員会では10月23日(水)に県庁で臨時会が開かれ、中里高校を含む県内3つの「地域校」はいずれも来年度募集停止が決まりました。10月1日に県教委へ存続を要望した濱館町長は、決定を受けて「決定に対して異論を申し上げるつもりはない。ただ、津軽半島北部に高校が無くなることが、県の地域施策として本当にいいのか」という思いは、これからも県に届けたい」と話し、また、同校1年生の教材代を一部負担したほか、メバルねぶた作りや、地場産品を使った激辛料理グランプリなどに生徒たちが協力してきたことに触れたあとに「地元で高校が無くなることで、経済的な理由から通学できない子どもが出る可能性がある。その点は県も一緒に考えて欲しい」と要望しました。



おばけなんかこわくない!

駅ナカでハロウィンパーティー

いいなかどまり会が、10月19日(土)津軽鉄道中里駅内の駅ナカにぎわい空間でハロウィンパーティーを開催しました。今年は約150人が参加し、それぞれ工夫をこらした衣装を身にまとい、交流を楽しんでいました。

今年は、昨年に続くおばけ屋敷やミニゲームなどが実施されたほか、中里・富野・薄市の3こども園の園児たちによるステージ発表がありました。園児たちはこの日のための曲目でダンスを披露したり合同で歌ったりして、会場を大いに沸かせ、パーティーは終始大盛況で幕を閉じました。



安心して暮らせる町をめざして 第6回中泊町社会福祉大会

町社会福祉協議会が10月18日(金)に総合文化センター「パルナス」で社会福祉大会を開催しました。全2部構成で行われ、第1部では各種表彰を含む式典、第2部では近年巧妙化・悪質化が著しい消費者問題を取り上げた「消費者ブロックフォーラム in 中泊」が開かれました。

フォーラムの講師には、元消費者庁長官の阿南 久さんを講師に、「ともに学び かしこい消費者になろう!!」と題した、消費者問題を地域のつながりで減らしていくための基調講演が行われました。

講演の後は、フォーラムの実行委員会の構成員らそれぞれの所属団体が消費者問題に対して何ができて、町全体でどのように取り組むべきか発表がありました。発表をきいた阿南さんは「様々な立場の団体があることに驚いた。そのネットワークの力で“つながり”を作り、消費者被害を減らすことで、人々の生活が豊かになっていくと思う」と感想を伝え、エールを送りました。



バス利用状況などの報告

あらま号の運行協議会

奥津軽いまべつ駅・津軽中里駅間バス運行協議会(会長・中島久彰今別町長)の今年2回目の会合が9月30日(月)に中泊町役場で開かれました。

会合では、昨年10月から今年9月23日までの利用者が3,097人で1便あたり1.06人、9月末までは3,153人で1便当たり1.08人となる見込み数で、国の補助金交付基準の1便当たり1人を上回る見通しであることが報告されました。そのほか、イベント時などで使えた半額割引券発行が令和元年9月末で終了すること、利用促進を目指してバスのラッピングや津軽弁の車内アナウンスを導入することを確認しました。



地域で乗り越えるために

小泊中学校で合同訓練

第6回目となる合同防災訓練を、中泊町区分日本赤十字小泊奉仕団が10月7日(月)、小泊中学校で開催しました。この訓練には、下前・新町2・折戸地区の3自主防災会と小泊中学校生徒、民生委員や同奉仕団員など約100人が参加しました。開会式で濱館町長は「予期しない災害で何をすべきか普段からの心構えが大切。いざという時に地域を守る意識で取り組んでいただきたい」とあいさつしました。

訓練では、身を守る知識や判断力を身につける講話や映像上映、ハイゼックスを用いた炊き出し訓練が行われました。また、小泊消防署隊員を講師に招いた講習会も開かれ、心肺蘇生・救急法の指導を受けました。



感謝の気持ちで地域へ貢献

「シルバーの日」奉仕活動

毎年10月を「シルバー人材センター事業普及啓発促進月間」とするシルバー人材センターが、10月9日(木)に「シルバーの日」清掃奉仕活動を中央公民館で実施しました。開催に当たって近村敦理事長は「現在206人の会員数で、就業機会や生きがいを提供できている。今後も皆さんと地域貢献をしていけるようよろしくお願いします」とあいさつしました。

この日は天候を考慮し、毎年恒例の交通安全パレードは予定を変更して、中里こども園による鼓笛演奏の披露が館内で行われました。続いて、村上智中里駐在署長が「最近の警察情勢」と題して、中泊町近辺の情報などを話しました。そして、お馴染みとなっている小向千鶴子さんによる「自分だけは大丈夫？」と題した講演も行われ、参加者たちはときに笑いながら聞いていました。

10月16日(水)には、延期していた屋外清掃奉仕活動が行われ、カーブミラー拭きやごみ拾いが行われました。



ごみの処理の過程を学ぶ

4年生児童たちがごみ学習会

ごみ処理過程を各施設を巡って学ぶ「ごみ学習会」が9月25日(水)に武田小学校で、9月26日(木)に中里小学校で実施されました。

学習会は、4年生の社会科の授業と関連させて行われ、2校とも4年生の児童たちが町最終処分場や西部クリーンセンター(つがる市稲垣)を見学しました。児童たちは、最終処分場で発生する汚水がきれいになる様子や、燃やせるごみをクレーンで運ぶ様子に、好奇心で目を輝かせながらメモを取っていました。同学習会は、10月24日(木)には薄市小学校でも4年生を対象に行われました。



敬老会の顕彰状を伝達

濱館町長が訪れ手渡す

敬老会に足を運べなかった顕彰者のもとを濱館町長が訪れました。9月27日(金)にはきりん館、10月7日(月)にはすい賓荘、泉の里、やまなみ、宝森を訪れ、88歳となった人たちに「おめでとうございます。これからも元気でいてください」と顕彰状を手渡しました。

顕彰状が手渡されると、同じ入所者や施設職員とともに写真を撮ったり、談笑したりして、長寿を祝っていました。



防災・減災への知識を高める

町社協が防災体験事業実施

防災や被害を最小限にとどめるための知識取得や住民同士の関係づくりを目的に、町社会福祉協議会が防災体験事業を9月27日(金)に体育センターで実施しました。

(一社)コミュニティ・4・チルドレンの福祉・防災学習コーディネーターである菅原清香さんを講師に迎え、「高めよう防災力 深めよう地域の絆」と題した講義や、「避難所たすけあいゲーム」で、防災への意識向上を図りました。また、身近にある物の活用法を学ぶ実技では、ポリ袋を使ったカップづくりや新聞紙をつかったスリッパづくり、ラップを活用した包帯法を学びました。そのほかにも、ダンボールベッドなどの防災グッズの展示もあり、普段の生活では体験することができない貴重な機会となりました。



小中学生対象ワークショップ開催

教育委員会総務学務課

どまり小中学校建設事業(仮称)に係るワークショップが10月4日(金)には小泊中学校、10月11日(金)には小泊小学校で実施されました。

ワークショップでは、専門家のアドバイスをもとに、新校舎の教室の看板などで使うデザインの案を考えました。実際に校舎を使用する児童・生徒らの意見を取り上げ、建設の記念にする狙いがあります。



冬期・年末年始のゴミ収集日のお知らせ

問 環境整備課衛生係 内 1912

1. 年末年始の日程

	12/28	12/29	12/30	12/31	1/1	1/2	1/3	1/4	1/5	1/6以降
(1) ゴミ収集(可燃・不燃・資源)										
中里地域	通常	休み	年末年始による休み					通常	休み	通常
小泊地域	休み		年末年始による休み					休み		通常
(2) 一般廃棄物処分場										
中泊町一般廃棄物最終処分場	通常		年末年始による休み					通常		6日休み 7日休み
小泊一般廃棄物最終処分場	休み		年末年始による休み					休み	通常	
(3) 西部クリーンセンター(稲垣)	通常	休み	通常	年末年始による休み				通常	休み	通常

年末年始をはさみ、この期間中はゴミ収集等が長期休業となります。

大変ご不便をお掛けしますが、各家庭での適切なゴミ管理にご協力をお願いします。

2. 冬期間のゴミ収集(中里地域のみ)

令和元年12月2日(月)から令和2年3月31日(火)までの期間、積雪の影響でゴミ収集車が入れない地域は、ご面倒でも昨年同様、本道路までゴミを出してください。また、その際にはゴミが散乱しないようこれまで通り、ネットや布などで対策をお願いします。

旧姓(旧氏)併記が可能になります

問 町民課戸籍住民係 内 1315

令和元年11月5日から申請により旧姓(旧氏)の併記が可能となります。

旧姓(旧氏)を併記できる書類は

- ・住民票
 - ・マイナンバーカード(通知カード)
 - ・印鑑登録証明書
 - ・公的個人認証サービス 証明用電子証明書
- となっております。

詳しくは総務省ホームページ (http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/daityo/kyuuji.html) にてご確認ください。

11月は「労働保険適用促進強化期間」 労働保険の加入手続きはお済みですか？

問 五所川原公共職業安定所 ☎ 34-3171

労働者を1人でも雇っている事業主(農林水産業の一部を除く)は労働保険(労災保険・雇用保険)に加入する義務があります。手続きを行わないと、職権により強制適用されることがあります。

◆労災保険

業務災害や通勤災害で負傷したとき、必要な保険給付を行います。

◆雇用保険

労働者が失業した場合、生活安定や再就職促進のための必要な失業給付を行います。

心配ごと相談 町社会福祉協議会

中里地域	小泊地域
11月20日(水) 宮越 優子 古川 節子	11月20日(水) 菊池 俊一 佐々木 守善
相談場所 役場相談室2 相談時間 午前9時～正午 相談に来られる人は、庁舎西側 出入り口をご利用ください。	相談場所 すくすくしたまえ館 相談時間 午前9時～正午

移動なんでも行政相談

日時…11月27日(水) 午前9時～正午

場所…役場相談室2

行政相談委員…秋元 武弘、藪田 由比子

※行政相談は、住民から寄せられた苦情や意見・要望を、住民と関係行政機関との間に立って、公正・中立な立場から必要なあっせんを行い、その解決や実現の促進を図ります。

交通事故5年間ゼロ

知事から表彰状

交通事故が中泊町で5年間ゼロだったことから、知事表彰を受けました。10月8日(火)には濱館町長が県庁を訪れ、三浦朋子県環境生活部長から表彰状を受け取りました。

濱館町長は「表彰は町民にとって名誉で、各団体の活動をはじめとするみんなで頑張った成果。今後も交通事故ゼロの維持に取り組んでいきたい」と話しました。

今後も、町民の皆さんの手で、交通事故ゼロの維持を目指していきましょう。



絵画と書道のウデを磨く

MOA美術館中泊作品展開催

子どもたちの創作活動を奨励し、「生命を尊ぶ心」と「心豊かな人間形成」を目的にMOA美術館(静岡県)が実施する児童作品展。10月12日(土)・13日(日)には、中央公民館で中泊児童作品展が開催されました。

今年は、絵画119点、書写226点の計345点の作品が寄せられ、13日(日)に同館で表彰式が行われました。MOA美術館奨励賞の作品は、全国区のMOA美術館児童作品展に出展されます。

なお、各賞は次のとおりです。

■MOA美術館奨励賞… 下山奈々美(薄市小6)／ 成田理音(小泊小3)

■(株)東奥日報社賞… 秋元理希(薄市小6)／ 赤石徠翠(中里小6)

■中泊町長賞… 新岡姫麻莉(武田小3)／ 本庄音葉(中里小5)

■中泊町議会議長賞… 木村陸(中里小4)／ 久保田理夢(小泊小3)

■中泊町教育長賞… 伏見優汰(薄市小2)／ 加藤心春(中里小6)

■中泊町連合PTA会長賞… 平山真由(薄市小4)／ 佐藤洸史郎(薄市小6)

■保護司会中泊分会会長賞… 北畠晏(薄市小1)／ 菅原有紗(武田小6)

■中泊町更生保護女性会会長賞… 中村龍真(中里小1)／ 坂田多優(中里小4)

■中里町自然農法研究会会長賞… 塚本帆夏(武田小5)／ 黒滝和(中里小6)

■金賞… 葛西天翔(武田小2)

佐々木海音(薄市小6)

外崎香豊(中里小2)

角田藍花(小泊小5)

■銀賞… 松館彩七(薄市小1)

白塚逞人(薄市小3)

成田七星(薄市小2)

佐野陽菜(武田小5)

■銅賞… 須藤龍生(中里小1)

長谷川伊織(小泊小2)

磯野海桜梨(小泊小2)

高橋茜音(小泊小4)

■佳作… 伏見啓太(薄市小1)

内海蒼(小泊小1)

黒田翔(薄市小3)

奈良幸歩(武田小4)

菊池心葉(中里小4)

奈良悠真(中里小5)



図書館情報

イベント情報

〈紙ねんどでオリジナルクリスマスツリーを作ろう〉

今年のクリスマスはオリジナルツリーを飾って過ごしませんか？全3回の講習でツリーが完成します。

◆日時…各日とも10時～11時30分

①11月16日(土) 成形

②11月22日(金) 色づけ

③11月30日(土) ツヤ出し・飾り付け

◆場所…中泊町総合文化センター「パルナス」

◆参加費…無料 ◆定員…先着10人

◆申込み…図書館カウンターまたは電話(69-1111)

〈校歌と昔っこ・朗読の集い〉

◆主催…潮風おはなし会 代表・対馬てみ

◆日時…11月23日(土) 13時30分から15時30分

◆場所…旧下前小学校(現中泊町博物館下前分館)
参加無料で申し込みは不要です。当日、会場へ直接お越しください。

今月のMiniコレクション

一般

○テーマ 「なべ特集」

あったまる！寒い冬、心も体もお鍋ひとつで！
鍋料理に関する本を集めました。

児童

○テーマ 「クリスマス」

みんな楽しみクリスマス！サンタさんはどんなプレゼントをくれるかな？
クリスマスに関する絵本を集めました。

新刊情報 [一般]

『おしりたんてい ラッキーキャットはだれのてに！』
トロルポプラ社

『人生100年時代の医療・介護サバイバル』
中澤まゆみ 築地書館

『燈火 風の盆』 豊岡 美加 小学館

『代償』 井岡 瞬 KADOKAWA

『世界一美味しい手抜きごはん』 はらぺこグリーゼ KADOKAWA

図書館の話題



あきのおはなし会

9月21日(土)、秋にちなんだ絵本の読み聞かせや歌にあわせたダンスが行われました。

参加してくれた松川^{あらた}新ちゃんのお母さんは、「楽しかったです。また、参加したい！」と感想をいただきました。

新^{あらた}ちゃんは、絵本をみておはなしをすると「じゃあじゃあ」などの擬音に対して、声を出して喜んでいました。

ライブラリーコンサート

10月12日(土)、フルートとオーボエのアンサンブルコンサートがありました。

弘前市吹奏楽団の3人が図書館を美しい音色の空間に演出していました。

参加者からは、「フルートとオーボエの音の重なりがすごく綺麗だった。」「音色が美しく、こころが安らぎ良い時間をいただきました。」と感想が寄せられました。



クマ出没にご注意！

問 農林基盤整備係 内 1812

秋はクマが冬眠に備えるため、エサを求めて活発に活動します。山菜採りや登山などで入山する際は、大きな音を出しながら歩く、なるべく複数人で行動する、などのクマに出会わないための対策を必ず行いましょう。農政課ではクマの目撃情報の収集・提供を行っておりますので、クマを見かけた方や、クマの目撃情報が知りたい方は、農林基盤整備係までご連絡ください。

ツキノワグマ注意報が発令されています！

◆期間…令和元年11月30日(土)まで

◆発表理由…県内で9月のクマ出没件数が例年より多く、今後も被害発生が懸念されるため。

新そば作り体験講座

問 中央公民館 内 57-2341

◆日時…11月23日(土)

1回目 午前9時 2回目 午前11時

◆場所…中央公民館大ホール

◆対象…町民(中学生以下保護者同伴)

◆定員…先着10人(5人未滿中止)

◆締め切り…11月18日(月)

◆参加料…1,000円(材料代として当日徴収)
※1人分(500g)で5食分。会場で召し上がれます。
持ち帰るときは容器をご用意ください。

「女性の人権ホットライン」強化週間

問 青森地方法務局人権擁護課 内 017-776-9024

青森地方法務局及び青森県人権擁護委員連合会では、下記の期間中、平日の電話相談時間を延長し、土・日曜日にも電話相談を行います。相談は無料で、秘密を守ります。悩む前に、まずは相談を。

◆期間 11月18日(月)～22日(金) 8時30分～19時
11月23日(土)～24日(日) 10時～17時

◆電話番号
女性の人権ホットライン 0570-070-810

45歳以上対象 シニア向け合同企業説明会

問 ネクストキャリアセンターあおもり 内 017-723-6350

◆対象者……45歳以上で求職中の人

◆参加企業…各会場15社程度

◆開場・日にち(いずれも午後1時から午後4時)
・青森会場……12月17日(火) ラ・プラス青い森
・八戸会場……1月21日(火) ユートリー

この説明会は、雇用保険受給者資格者の求職活動として認められます。

国有林入林時の注意

問 津軽森林管理署金木支署 内 53-3115

11月1日からは狩猟期間に伴い、国有林で昨年11月に発生した誤射による職員死亡事故を踏まえて、注意喚起の標識を掲示する指導をしています。次の標識を見掛けたときは近づかないようお願いします。

《設置標識》

・林道入口付近

「本流域で狩猟中」

・捕獲場所の入口付近

「この場所で狩猟中」



2019法人会の集い

問 (公社)五所川原法人会 内 35-1318

◆日時…11月22日(金)

・第1部 午後6時から6時30分

講演「日本海深浦サーモン」

講師 日本サーモンファーム(株)

取締役 野呂英樹

聴講無料

・第2部 午後6時30分から午後8時

2019法人会の集い(会員交流会)

※参加料…1人5,000円

どなたでも参加可

◆場所…ホテルサンルート五所川原

◆申し込み…問い合わせ先まで。申し込み書はHPからダウンロードできます。

乗って応援!! 津軽鉄道

津軽鉄道の乗車人数は、今年4月1日から8月31日までで、合計113,889人となっています。目標値である合計30万人を目指していますが、乗車人数は伸び悩み、存続が厳しい状況が続いています。休日は、津軽鉄道の車窓を眺めて過ごしてみませんか。

乗って応援!!

令和元年度 目標乗車人数	300,000人	津 軽 鉄 道
令和元年度 4月～8月分 の乗車人数	113,889人	
目標まであと……	186,111人	

たばこの害から健康を守るために

◎受動喫煙対策が強化されます

2018年7月に健康増進法の一部を改正する法律が成立し、2020年4月1日より全面施行されます。この法律により、事業者の皆様だけではなく国民の皆様におかれても、望まない受動喫煙を防止するための取り組みは、マナーからルールへと変わります。

【基本的考え方第1】

「望まない受動喫煙」をなくす。

【基本的考え方第2】

受動喫煙による健康影響が大きい子ども(20歳未満)、患者等に特に配慮する。こうした方々が主たる利用者となる施設や、屋外について、受動喫煙対策を一層徹底する。

【基本的考え方第3】

施設の類型・場所ごとに対策を実施。「望まない受動喫煙」をなくすという観点から、施設の類型・場所ごとに、主たる利用者の違いや、受動喫煙が他人に与える健康影響の程度に応じ、禁煙措置や喫煙場所の特定を行うとともに、掲示の義務付けなどの対策を講ずる。

(資料 厚生労働省)

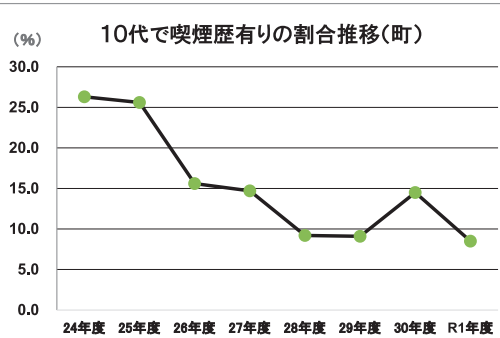


◎「防煙教室」実施

■町民課健康推進係では、未成年者の喫煙防止を図ることを目的に、小・中学校との協働事業により、平成12年度から毎年「防煙教室」を開催しています。防煙教室後の児童生徒の感想です。



★わかったこと
タバコの有害性、依存性、副流煙(受動喫煙)の害
勉強、運動にも影響がある
子供にも害がある
電子タバコも危険である
中泊町は青森県平均よりタバコを吸う人が多い
青森県は喫煙率2位(ショック)
★感想
大人になっても吸いたくない(吸わないようにしたい)
誘われても吸いたくない(NOと言える勇気をもつ)
親(家族)に吸うのをやめてほしい(やめるよう伝える)。
学習内容を伝える。(健康のため、受動喫煙防止のため)
周り(友人)で吸っている人がいたらやめるよう伝えたい。
興味好奇心で吸わないようにしたい。
中泊町・県・全体でタバコを吸う人が減ってほしい
(たばこを吸わない町1位、青森県も健康な県に選ばれる)



◎防煙・禁煙推進ポスター優秀作品

町内小学校6年生の皆さんに防煙・禁煙推進ポスター製作をお願いしました。たばこの健康に及ぼす害や依存性についてよく理解された内容のものが数多く見られました。優秀作品(最優秀賞・優秀賞・入選)16点については、公共機関や金融機関、医療機関など多くの方の目に触れるところに展示します。どうぞご覧ください。



◎禁煙を考えている方は、禁煙治療もあります。禁煙治療を行っている医療機関は県ホームページに掲載されています。「青森県禁煙治療医療機関」で検索可能です。



むし歯のない子の紹介

3歳児健診にて

(9月5日実施)

- ①日頃むし歯をつくらないうつ気をつけていることは?
- ②わが子の自慢できることは?



古川瑠璃ちゃん
(深郷田上)



鈴木晴乃ちゃん
(八幡)



久保結ちゃん
(富野)

- ①歯みがきを欠かさない
- ②しっかりとしている



松田華弦ちゃん
(豊島)



葛西悠月ちゃん
(福浦)



山谷未実ちゃん
(薄市上)

- ①仕上げ磨きを頑張っています★②ダンスと歌が大好き♡優しい子です!

糖尿病について知ろう!

◎11月11日(月)〜17日(日)は『全国糖尿病週間』です

生活習慣病の一つ、糖尿病。糖尿病が疑われる人は、40代以上の3人に1人。身近な病気ですが、自覚症状なく進む、怖い病気でもあります。この機会に、



■高血糖が続くとどうなる!?
高血糖が続くと、ほとんど自覚症状がありません。そのため気づかないうちに症状が進行し、異変に気付いた時には、既に深刻な状態に進行していることが少なくありません。
■糖尿病を重症化させない
糖尿病は血糖値をうまくコントロール

生活習慣を振り返り、糖尿病予防について考えてみましょう。
■糖尿病ってどんな病気?
私達のからだは、膵臓で作られる「インスリン」の働きで、食事などから得られたブドウ糖を全身の細胞に運んでいます。ブドウ糖は、体内でエネルギーとして利用されますが、糖を多く摂りすぎたり、インスリンを使いきると、徐々に膵臓が疲弊し、インスリンが出にくくなります。インスリンがうまく働かないと、血液中に糖があふれ高血糖の状態になり、これが続くことを糖尿病といいます。

「風しんの抗体検査・予防接種について」

◎受けるのは今!無料クーポン券を配布しています
風疹は、成人が罹患すると症状が重くなる場合があります。また、妊娠初期の妊婦さんが感染すると、生まれてくる赤ちゃんに目や耳などの障害が起きることがあります。あなたと、これから生まれてくる世代の子どもを守るために風しんの抗体検査・予防接種を受けましょう。

※お詫びと訂正

6月の無料クーポン券送付時にお知らせしました医療機関の電話番号に間違いがありました。訂正いたします。
・井沼洋クリニック(69-1071)
・小泊診療所(64-2117)
お問合せ:町民課健康推進係

＊栄養士による健康コラム＊

糖尿病予防におすすめの食材、きのこを使ったレシピを紹介。きのこは低エネルギーで、血糖値の上昇を緩やかにする食物繊維を含むので取り入れたい食材です。

しめじと鶏肉のレンジ蒸し ～にらソースがけ～

【材料2人分】 鶏もも(皮なし)…140g、しめじ…100g、酒…小さじ2、にら(みじん切り)…40g、ねぎ(みじん切り)…40g、赤唐辛子(小口切り)…1/2本、油…小さじ1
〈A〉 酢…大さじ2、しょうゆ…小さじ2、砂糖…小さじ2
【作り方】 ①しめじは石づきを切り落として小房にし、鶏ももと一緒に耐熱皿に入れて酒をふりかけ、ラップをして電子レンジで約4分加熱する。②フライパンに油を入れ、赤唐辛子、にら、ねぎを加え軽く炒め、〈A〉を加える。③鶏肉を一口大に切り、しめじと一緒に皿に盛り付ける。その上に②のソースをかける。

まちのイベントカレンダー

11 月			12 月		
16	土	10:00~11:30 紙粘土でオリジナルクリスマスツリーを作ろう(1回目:成形)「図書館」	1	日	
17	日		2	月	10:00~ 運動教室(中央公民館)
18	月	10:00~ 運動教室(中央公民館)	3	火	
19	火		4	水	
20	水		5	木	12:15~ 1歳6か月児健診(中里保健センター)
21	木		6	金	
22	金	10:00~11:30 紙粘土でオリジナルクリスマスツリーを作ろう(2回目:色付)「図書館」 13:00~15:00 こころの健康相談(パルナス)	7	土	
23	土		8	日	
24	日		9	月	10:00~ 運動教室(中央公民館)
25	月	10:00~ 運動教室(中央公民館)	10	火	
26	火		11	水	
27	水		12	木	
28	木	ブックスタート「図書館」 乳児健診	13	金	
29	金		14	土	
30	土	9:00~16:45 特別展「太宰治生誕110周年-太宰治と奥津軽-」(博物館:12/22まで) 10:00~11:30 紙粘土でオリジナルクリスマスツリーを作ろう(3回目:飾付)「図書館」	15	日	

博物館ニュース VOL.98

◆秋の企画展「北欧の手しごと」
—デンマークの家庭用木工品—
nacaコレクション
日時:11月17日(日)まで 午前9時~午後4時45分/休館日:毎週月曜・第4木曜・祝日/入館料:通常料金(一般200円、高校生100円、小・中学生50円)



◆街歩き散策ウォーク

9月津軽中里駅から、神明宮・中里城などを巡る散策ウォーク



が開催され、参加者は山あり谷ありのコースに挑みました。

◆金木高・木造高就業体験

このほど、金木高2年秋元美羽・成田姫星さん、木造高2年久保田優・佐藤顕立・伊藤諒君が、資料登録や教育活動など、博物館の仕事に取組みました。



◆「駅ナカ学校」分館見学

9月「駅さいぐべし」実行委員会主催の「駅ナカ学校」が開催され、町内の高齢者などが今泉分館を見学しました。



◆中里小写真クラブ撮影会

9月宮越家離れ・庭園の撮影会が開催され、子どもたちは真剣なまなざしで郷土の誇る文化財に向き合っていました。



◆「今泉の昔」第2集

このほど、小山内清春氏(今泉)が、今泉地区の昔話や写真を掲載した記録集を刊行しました。図書館などでご覧になれます。



戸籍の窓口

(9月届出分)

お誕生おめでとうございます

松谷 清寧(女・宗展) 宮野沢
田中ハレル(女・洋) 富野
伊南利恒樹(男・巨樹) 派立上
山田 栞愛(女・悟史) 上町

結婚おめでとうございます

鎌田 祐紀(派立中)
内野 りこ(東京都)

阿部 将吾(深郷田下)

野上 理帆(薄市上)

多谷 翼(大阪府)

宮本 梓(深郷田上)

川浪 啓豪(薄市上)

佐藤 理奈(宮城県)

奈良 真孝(鶴田町)

高松 和代(田茂木)

成田 瑠偉(派立中)

工藤 莉子(上豊岡)

119 消防&救急

秋の火災予防運動「防火パレード」実施!

10月21日(月)、秋の火災予防運動の一環として幼年消防クラブ防火パレードを実施しました。町民に防火意識の高揚を図るため、各団体が参加し火災予防を呼びかけました。



富野こども園防火演技

津軽中里駅から出発したパレードには、中里こども園・富野こども園の園児約80名が参加し、防火演技や演奏を行い、沿道に詰めかけた町民から盛大な拍手を受けていました。



中里こども園防火演奏

インターンシップ

10月8~10日の3日間、木造高校の生徒が中里消防署へインターンシップに来ました。今回のインターンシップで得たことを活かし、今後に役立ててもらえたらと思います。



住宅用火災警報器設置率100%の町「なかどまり」を目指して

秋の火災予防週間中、住宅用火災警報器の設置調査を行いました。中泊町の設置率は全国平均より依然低い状況です。住宅火災では逃げ遅れにより亡くなるケースが多いため、就寝時犠牲になる危険性も高くなっています。そのため住宅用火災警報器の設置が義務化されています。早期に設置をお願いします。

人のうごき

9月末現在(前月比)

人口	10,952人(-20)
中里地区	8,060人/小泊地区2,892人
男	5,143人(-12)
女	5,809人(-8)
世帯数	5,114(-1)
出生	4 / 死亡 22
転入	16 / 転出 18

お悔やみ申し上げます

川島 正敏(今泉上)
田中正子(向町下)
山本 清實(宮野沢)
外崎 忠榮(宮野沢)
鈴木 四十二(富野)
川合 ミチエ(浜町)
生田 みさを(新町2)
柏崎 正江(新町2)
高杉 菊夫(新町1)
升田 キヨ(花丘町)
佐藤 節子(下前浜)
山崎 精三(小泊派立)
大石 稔(温泉町)
磯野 吉(下前上)
山田 よし(花丘町)

手作業で稲を刈り汗を流す

中里小・武田小
が体験

稲刈りの体験を通じて農業へ興味を持ってもらおうと、若手農業者の会「ばろかだる会」が主催で、中里小学校の児童たちに稲刈りを、小野大海さんの田んぼで体験してもらいました。

この稲は、5月に児童たちが苗植えたもので、ばろかだる会会員たちが手入れを続けてきました。児童たちは成長ぶりに大喜びで、その後の作業では真剣な眼差しで作業に臨みました。

10月2日(水)には武田小学校の児童たちが、長利謙二さんの田んぼで稲刈りを体験しました。

長利さんは、かつての農業を紹介しながら、ワラで稲を縛り、最後は束を集めてワラ立てをつくって乾燥させる方法や、大正時代の脱穀機を見せて、現代の農業との違いを紹介していました。



宇宙の味はどんな味？

宇宙毛豆の
摘み取り体験

宇宙毛豆の収穫体験を9月27日(金)に薄市こども園で、同園と中里こども園、富野こども園が合同で行いました。

この宇宙毛豆は、2010年に国際宇宙ステーション「きぼう」にもちこまれた種子を育て、受け継がれてきたもので、6月に薄市こども園の園児たちと県立五所川原農林高校の生徒たちが种植えをしました。摘み取りには五農生たちも駆けつけ、園児たちは楽しく教わりながら、力を込めて摘み取っていました。

摘み取り後は、茹でたての宇宙毛豆を試食し、薄市こども園の北畠瑞大くんは「かたくてチクチクした。おいしくて100個くらい食べた」と自身で植えた宇宙毛豆の生育をしっかり味わっていたようでした。

